

「全国学力・学習状況調査」の状況報告

高浜市教育委員会

4月21日に、小学校6年生と中学校3年生の全員を対象に行われた「平成21年度全国学力・学習状況調査」について、高浜市の状況をお知らせします。

1 教科に関する調査の結果

小学校中学校の各教科の学習領域で、「良くできていた領域」と「課題がある領域」を挙げ、その領域での主な内容を示します。(○:良くできている内容 △:努力が必要な内容)

(1) 小学校

ア 国語

「話し手・聞き手」

△ 話し手の立場や意図をとらえて聞く

「言語事項」

○ 5年生までに配当されている漢字を正しく読む

○ ローマ字で表記されたものを正しく読む

「書くこと」

△ 目的や意図に応じて、事象や意見などを関係付けながら書く

「読むこと」

△ 筆者の表現の工夫に着目して読む

○ 段落の内容を的確にとらえる

イ 算数

「数と計算」

○ 小数と整数の除法の計算をする

○ 数を四捨五入して、概数で表すことができる

○ 整数と小数の加法を用いて、重さを求めることができる

「量と測定」

○ 角の大きさを測定する場面や、分度器の目盛りを読むことができる

「図形」

○ 平行四辺形の向かい合う辺の長さが等しいという性質を理解している

「数量関係」

△ 減法と除法の混合した整数の計算をすることができる

△ 百分率を求めることができる

○ グラフから必要な数量を読み取るができる

(2) 中学校

ア 国語

「話し手・聞き手」

○ 話の内容から必要な情報を聞き取る

「言語事項」

○ 文脈に即して漢字を正しく読んだり書いたりする

○ 辞書に書かれている情報を適切に読み取る

「書くこと」

○ 書かれている内容をとらえ、資料に基づいて自分の考えを説明する

△ 資料に表れている工夫を自分の表現に役立てる

「読むこと」

○ 本文の表現の仕方や特徴に注意して、内容を正確に読み取る

△ 短歌の形式に従って意味のまとまりをつかむ

イ 数学

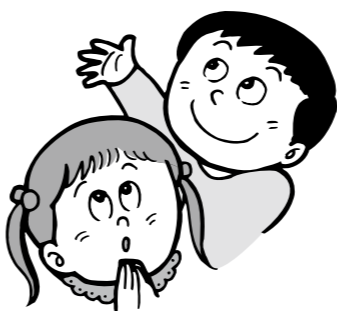
「数と式」

○ 指数の計算の仕方を理解している

○ () を含む正の数と負の数の計算をすることができる

「数量関係」

△ 反比例の表から、xとyの



(1) 小学校6年の状況

【割合の高いもの】

・ 普段(月～金)、早寝、早起きをしている

・ 算数の勉強が好きである

・ 読書が好きである

・ 算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える

・ 算数の授業の内容はよく分かる

【割合の低いもの】

・ 今住んでいる地域の行事に参加している

・ 40字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くのは難しくないと思う

・ 家で自分で計画を立てて勉強している

・ 学校の授業以外に、普段や土日に家庭学習をする

(2) 中学校3年の状況

【割合の高いもの】

・ 普段(月～金)、早起きしている

・ 家で学校の授業の予習をする

・ 家で学校の宿題をする

・ 読書が好きである

・ 家で学校の授業の復習をしている

・ 家で苦手な教科の勉強をしている

・ 数学の授業の内容がよく分かる

・ 家でテストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強する

・ 普段(月～金)、テレビゲームをあまりしない



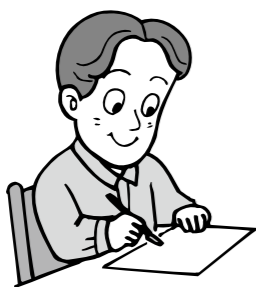
3 検査結果を受けて

教科に関する結果について見えますと、小学校中学校ともに国語では、主として知識を問う言語事項に関する内容がよく身につけていると言えます。しかし、書くことや読むことなど活用する力に課題があることがわかります。算数・数学においては数量関係に課題があるものの、小学校では、数と計算、図形について、中学校では数と式について理解が進んでいます。これらの結果は、市全体の傾向であり、各学校によって課題は異なっています。各学校で結果を分析して課題を明らかにし、現在取り組んでいる対策を検証しな

がら、今後の学習指導に生かしていきます。

質問紙調査では、小学校中学校とも「読書が好き」と回答した児童生徒が多くありました。これは、各学校の朝読書などの取り組みや、市図書館との連携によって、児童生徒にとって読書がより身近なものになっている現れだと考えます。また、小学校では算数の学習に関して、好意的な意見を寄せている割合が高く表れました。少人数指導の定着に伴い、算数好きな児童生徒が増えていると考えられます。一方、学校の授業内容を振り返る家庭学習については、小学校、中学校ともに課題があります。これらの結果を受けて、今後とも家庭や地域の方々と連携を深めながら、児童生徒の健やかな成長を図っていきます。

この調査は、小学校6年生と中学校3年生のみの調査であり、また、学力も国語と算数・数学のみの調査です。子どもたちの全ての学力や生活の状況を表しているわけではありません。そのことを踏まえたうえで、この調査結果を今後の指導に生かしていきたいと考えています。



2 質問紙調査の結果

小学校中学校別に、全国と比較して割合の高いものと低いものについて代表的なものを示します。

(3) 今年度の傾向について

△ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる

「図形」

○ 二つの三角形が合同であることを判断する際に、必要な辺や角の相等関係を指摘することができる

△ 作図と線分の垂直二等分線について理解している

△ 問題(基礎)に比べB問題(活用)の正答率が低く、活用力に課題があるという傾向がありました。算数・数学では、「数量関係」の中で、小学校では百分率、中学校では反比例、二元一次方程式の理解が不十分でした。これらのことは全国的な傾向と同様の結果です。